

令和2年度事業報告書

認定特定非営利活動法人さわやか青少年センター

1 事業の成果

令和2年度は、年度当初から新型コロナウイルス感染拡大防止のために緊急事態宣言が発出され、全国の小中等高等学校の多くが約2ヶ月間休校となり、その後も感染の終息が見えないというこれまでにない事業環境であった。

この状況の中で、ふれあいボランティアパスポート(FVP)事業では、参加校は増えたものの都市部の中規模・大規模校の参加見送りで既存校の参加人数は減少した。一方、山形県青年の家の協力を得て、山形県下の全公立・私立高校の1年生へのFVP配布を実現できた。

また、平成24年度から令和元年度までの神埼市の新成人ボランティア活動アンケートを「調査報告」としてまとめ、広く発信する準備ができた。新規事業の「親子で“ちょいボラ”事業」では、学習会のテキストとして「親子で“ちょいボラ”ハンドブック」を作成し、教育関係新聞や公益財団の広報誌、当社ホームページに掲載するなど、啓蒙活動に取り組んだ。8年に亘り継続してきたスクールボランティアサミットは上記環境のため、イベントを中止した。

青少年期の地域活動普及については オンラインによる大学・団体等での講演・講義を中心に啓発を行った。

運営面では、「認定特定非営利活動法人」の有効期間の更新(令和7年3月18日まで)を東京都より認定された。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【3,161】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
遊びやボランティア活動・体験学習等を通じた青少年健全育成事業	ふれあいボランティア体験学習(FV)普及・啓発事業 1. ふれあいボランティアパスポート(FVP)事業 (1) FVP作成数(35,000冊) (2) 参加校・団体数・参加児童・生徒数 小中高校140校・5団体 児童・生徒数33,797人が参加。 (山形県青年の家の協力により、山形県下の全公立・私立高校59校の1年生全員9,621人にFVPを配布) (3) FV活動感想文募集 1) 感想文応募状況・各賞贈呈・感想文集作成 ・(応募)小学校7校、中学校1校、高等学校1校、1団体 計529人。 ・FV大賞1人、小学生賞10人、中学生2人、高校生賞2人を表彰。 ・感想文集(受賞者の顔写真を掲載)1,000冊を作成、配付。 ホームページに掲載。 2) 学校賞 ・10校に表彰状贈呈(感想欄回収率により、大規模校2校、中規模校4校、小規模校4校を決定) (4) 「親子で“ちょいボラ”」ハンドブック(A5版)1,000冊作成。 幼稚園・保育園・親子の広場等において、親子で“ちょいボラ”学習会の開催を予定し、ハンドブック使用を計画するも、コロナ禍で中止。別途、83冊をNPO団体等に販売。 (5) FVP講演: 東京都稲城市立稲城第六中学校 テーマ「ボランティアとふれあいボランティアパスポート」 1年生～3年生の全校生徒を対象に各1時間、計3時間実施。	4月 4月～1月	法人事務所	2人	(2) FVP参加校・団体の児童・生徒	(2) 34,000人	2,491
		10月～3月	法人事務所	3人	(3) 感想文集配布先のFVP参加校・関係団体の児童・生徒・教員と関係者、ホームページ閲覧者	(3) -1) 1,000人	
		3月	法人事務所	1人	(3)-2) 10校	(3) -2) 2,000人	
		6月～3月	法人事務所	4人	(4) 6団体	(4) 100人	
		10月3日	稲城第六中学校	450人	(5) 1校	(5) 450人	
調査・研究・開発・提言事業	2. 新成人ボランティア活動アンケート調査研究事業 (1) 1) 佐賀県神埼市新成人Vアンケート調査実施: 1月10日 会場: 神埼市教育委員会の協力を得、成人式会場(はんぎーホール)にて実施。アンケート対象者192人。回答者114人(59.4%) 2) 神埼市新成人VA調査分析・まとめ 小・中学生時代FVPに参加していた新成人は、現在65.8%がボランティア活動に取り組んでいることを確認。 (参考:平成28年度社会生活基本調査:20歳～24歳19.2%) (2) 平成24年度～令和元年度の本調査研究を「調査報告」にまとめる。公表方法について検討。	1月10日	佐賀県神埼市(はんぎーホール)	5人		(1)-2) 34,000人	
		1月～3月	法人事務所	2人	(1)-2) 神埼市市民、教育関係者		
		4月～3月	法人事務所	2人			
フォーラム・講演会・研修会・コンサルティング・講師派遣等の普及啓発事業	スクールボランティアサミット(SVS)事業 ・コロナ禍のため中止。 ・東京都奉仕・ボランティア教育研究会メンバーと情報交換実施。	4月～3月	法人事務所	1人	研究会メンバー	5人	251
	青少年地域ボランティアサークル活動(SVC)普及事業 大学・団体等での講演・講義を中心に啓発活動を行う。 (1) オンライン講演: 山形県青年の家体験講座「ボランティア実技研修会」受講生(高校生12名、サークル担当者等4名他) テーマ:「ボランティアとは～山形方式への思い」 (2) オンライン講義: 國學院大学渋谷校、教職課程必修科目「ボランティアと社会参加」受講生1年生～4年生 テーマ:「若者の社会参加とボランティア」	9月5日	法人事務所	1人	・山形県青年の家体験講座受講生	20人	291
		11月24日	法人事務所	1人	・國學院大学渋谷校「ボランティアと社会参加」受講生	46人	
広報事業	広報事業 ・上記の各事業に関する情報をホームページで発信。 ・ホームページに「親子で“ちょいボラ”」ページを新たに作成。 ・日本教育新聞社に「親子で“ちょいボラ”」ハンドブックを紹介。3月1日号に掲載紹介される。	12月10日	法人事務所	2人	・教育関係者	50,000人	128
		3月1日	日本教育新聞社		・子育ての指導者		

令和2年度 活動計算書（その他事業がない場合）

認定特定非営利活動法人さわやか青少年センター

（単位：円）

科 目	金 額	小計・合計
【A】 経常収益		
1 受取会費		337,000
正会員受取会費	112,000	
賛助会員受取会費	225,000	
2 受取寄附金		2,540,898
受取寄附金	2,540,898	
3 受取助成金等		0
受取助成金	0	
4 事業収益		78,800
事業収益	78,800	
5 その他の収益		1,120
受取利息	12	
雑収益	1,108	
経常収益計		2,957,818
【B】 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		0
(2) その他経費		3,161,437
売上原価	85,633	
諸謝金	94,137	
印刷製本費	239,641	
会議費	0	
旅費交通費	4,032	
通信運搬費	292,829	
地代家賃	1,317,066	
水道光熱費	52,492	
消耗品費	105,367	
修繕費	55,000	
保険料	23,000	
リース料	77,760	
諸会費	56,130	
新聞図書費	1,760	
支払手数料	475,090	
支払寄付金	100,000	
引越費用	181,500	
事業費計		3,161,437
2 管理費		
(1) 人件費		0
(2) その他経費		41,559
印刷製本費	4,482	
旅費交通費	1,104	
通信運搬費	33,600	
租税公課	1,200	
支払手数料	1,173	
管理費計		41,559
経常費用計		3,202,996
当期経常増減額【A】－【B】・・・①		-245,178
【C】 経常外収益		0
固定資産売却益		
過年度損益修正益		
経常外収益計		0
【D】 経常外費用		0
固定資産売却損		
過年度損益修正損		
経常外費用計		0
当期経常外増減額【C】－【D】・・・②		0
税引前当期正味財産増減額①+②・・・③		-245,178
法人税、住民税及び事業税・・・④		0
前期繰越正味財産額・・・⑤		2,017,100
次期繰越正味財産額③－④+⑤		1,771,922

令和2年度 貸借対照表

認定特定非営利活動法人さわやか青少年センター

(単位:円)

科	目	金額	小計・合計
【A】	資産の部		
1	流動資産		
	現金預金	242,854	
	青少年人間力育成事業用預金	700,226	
	棚卸資産	699,987	
	前払費用	55,660	
	流動資産合計・・・①		1,698,727
2	固定資産		
	(1)有形固定資産		0
	(2)無形固定資産		0
	(3)投資その他の資産		140,000
	敷金	140,000	
	固定資産合計・・・②		140,000
【A】	資産合計①+②		1,838,727
【B-1】	負債の部		
1	流動負債		
	未払金	66,805	66,805
	流動負債合計・・・③		66,805
2	固定負債		
	長期借入金	0	0
	固定負債合計・・・④		0
	負債合計③+④		66,805
【B-2】	正味財産の部		
	前期繰越正味財産額	2,017,100	
	当期正味財産増減額	-245,178	
	正味財産合計		1,771,922
【B】	負債及び正味財産合計【B-1】+【B-2】		1,838,727